

⑤6 忘れて、得る

ナポレオンってばそんなに小さかったんですか？ そういえば、ブロンテ姉妹もそうだった。イギリスのハワースに「嵐が丘」詣で行ったとき、ブロンテ博物館でシャローット、エミリ、アン姉妹の服や靴を見たんですが、あまりの小ささに子供時代のものかと思ったことがあります。ハワースがとくべつに厳しい自然環境だから人間もじゅうぶん生育できなかった……というわけでもなくて、19世紀の人は全体的に今より小さかったのかな。バースの服飾博物館にある当時の服もSSサイズだし。

肉体は小さくてもナポレオンは「熱狂情念」をフルに満たし、「大物」に……とここで気の利いたことでも書こうなと思っふと我にかえったのですが、わたし、ついこの間読んだばかりの『情念戦争』の身をキレイに忘れてるんですね。もう一度本を開くと「ここ、読んだ読んだ」と思い出すのに。最近こんなのはっきり。同じ本を2冊買って「これ読んだことある」なんてデジャ・ヴユ(既視感)ならぬデジャ・リュ(既読感)におそわれたりして。物忘れのこと英語で「シニア・モーメント」っていうけど、まだ「シニア」の覚悟がない身にはひとしお痛い、この忘却力の増大。



「エターナル・サンシャイン」
ガタイのいいケイト・ウィンスレット嬢

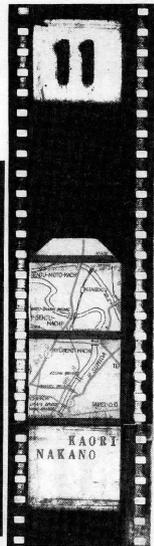
服飾史家である中野香織さんと、映画評論家で字幕翻訳家の齋藤敦子さんの往復書簡的コラム。ファッション誌の映画コラムニストとフランス映画社宣伝部員として出会った中野さんと齋藤さんは、以来十数年、友情を育む。この連載では、イギリス文化とフランス映画という専門分野をベースに映画談義が交わされる。



ドーバー 越えて

往復連載

齋藤敦子
中野香織



カット=井上陽子

でも忘却力が強くなると家族関係がラクになるというメリットもあるよ。反抗期の長男との昨日のトラブル、もう覚えてないとか(笑)。そういえば、ヴィクトリア女王にかわいがられた英国首相ディズレーリが、気難しい女王とつきあう秘訣としてこんな名言も残していました——「決して否定しません。反駁もしません。ただ時々忘れるだけです」。忘れる、という女王操縦術。

忘れる忘れないのそんなこななをめぐる映画としてピカーにおもしろかったのが、敦子さんも絶賛の「エターナル・サンシャイン」。カウフマン印のへんな脚本を、ミシェル・ゴンドリーの映像がアクロバティックに見せてくれましたね。

ジム・キャリーがづらい最近の記憶から幸せな過去の記憶へと「復元ポイント」をさかのぼる過程を見ながら、忘れるって許すことでもあるんだな、としみじみ。そういえば英語の「忘れる (forget)」と「許す (forgive)」って似てるし。念のために調べてみると、やはりセットで使われる用法もありました。Forget and forgive、記憶を手放し、不快感を心から離してしまおうこと。忘れることは得る(ゲット)ことで、許すことは与える(ギヴ)ことでもある、という含みもある表現です。

でさ、さつきから書きながらアレが出てこないの、相手役の女優の名前、ほら、例のあのガタイのいい……。